



自然観察会でバッタの説明を子どもたちにする脇本さん(左端)



■花の彩り

鬼ノ城を含む鬼城山一帯では、さまざまな季節の花が楽しめます。

春の訪れを告げるかのように、春間近の冬の山には黄色いアテツマンサクの花が咲きます。

春にはタムシバの白い花や鮮やかなピンク色のゲンカイツツジが楽しめます。初夏にはベニドウダン。夏には、ナツツバキの白い花が清涼感を漂わせます。

これらの花の自生場所は県内のほぼ南限にあたります。



タムシバの白い花



文化財や環境学習の拠点の鬼城山ビジターセンター

吉備高原の南端に位置する鬼城山には、豊かな自然が残り、貴重な植物も自生しています。

鬼ノ城への入口に鬼城山ビジターセンターが平成17年8月にオープン。文化財を知るガイダンス施設とし

**鬼城山の貴重な自然を
知ってもらい、
そして、守っていききたい**

でだけでなく、環境学習やウォーキングの拠点にもなっています。

トンボやバッタ、秋の七草などをテーマに、主に子どもたちを対象に開催される自然観察会。講師を務める脇本浩さん(清音上中島)は、「一般的なことから、鬼城山の自然までを知ってもらいたいと思ってやっています」と話します。

貴重な植物の自生について、険しい地形、山城や山上仏教などの歴史的背景もあり、人の手が入りにくか

ったことが、いい結果につながったのではと脇本さん。「この自然を守っていききたい」と力を込めました。

北の吉備路保全協会の事務局長の堀公典さん(泉)も、自然と歴史遺産の両方を愛する気持ちから、将来を見据えて話しました。

「貴重な湿生植物もあり、全国に誇れる遺跡もあり両方楽しめる場所。訪れる人のためにも、荒地にはできないので、なるべく現状を維持し、遺跡と調和した保護活動が続けていきたい」。



備中温羅太鼓の代表曲「温羅」



■里山景観を後世に

自然保護や愛護の活動を展開している北の吉備路保全協会(宮本邦男会長)は、里山の景観を守り、後世に伝える活動をしています。

平成11年から10年にわたり、北の吉備路写真展を開き、鬼ノ城周辺に残る里山を紹介しました。また、休耕田を荒らさないようにとソバの栽培や、山の手入れで出た間伐材による炭焼きなどの活動を続けています。



休耕田でのソバの栽培



鬼ノ城たたら倶楽部のたたら

**鬼ノ城をより所にし
鬼や鉄をキーワードに
個性豊かな活動を展開**

市内では、鬼ノ城をより所とした団体が、個性豊かな活動を展開しています。

鬼ノ城のふもとで産声をあげた備中温羅太鼓。国内のみならず海外でも公演活動をしています。代表曲は「温羅」。吉備津彦命と温羅の戦いの温羅伝説を、舞を織り交ぜて表現したそれは、見るものを感動させます。創設者で代表の塩尻司さん(総社三丁目)は「偉大な鬼ノ城に恥ない和太鼓集団として全国に発信した

い」と意気込みます。

毎年10月、日本古来の製鉄方法のたたらに挑む鬼ノ城たたら倶楽部。炉作りから操業までを行い、より良いたたらを追求し続けています。たたら場は鬼ノ城のふもとで、近くには日本最古級の千引カナク口谷製鉄遺跡(奥坂)があります。

代表の林修さん(西阿曾)は、「たたらで、吉備の鉄の歴史を広めたい」と語ります。

「鬼ノ城と温羅は、私た

ちの精神的な支え。いつまでも大切にしていきたい存在」。平成11年に「命もう一つの温羅伝説」で旗揚げ公演をした市民劇団「温羅」の代表の三宅誠一さん(井手)は話します。公演作品の多くに鬼が登場。人間の邪悪な心を鬼に投影し、人の生き方とは何かを問い続けています。

まちは人から。そして、風土に根ざした文化の創造は、まちをより魅力的にする力になります。